

第1回 十和地域まちづくり推進協議会 会議録要旨

【日 時】 平成29年3月21日（火）午後6時30分～8時30分

【出席者】 武内孝徳委員、山本拓也委員、山本卓委員、安藤岳委員、中平ゆかり委員、八木敏伸委員
山本大輔委員、松下洋平委員、中野千里委員

【行政側】 中尾町長、竹本地域振興局長、林町民生活課長
富田地域振興課副課長、林町民生活課副課長

【事務局】 黒田地域振興課主任

会 長・・・安藤岳委員
副会長・・・山本大輔委員

【議事及び質疑応答】

（山本拓也委員）

コーホート変化率法の計算方法、正確か。

（富田_地域振興課副課長）

人口推計にもいろいろな種類があり、そのなかでもコーホート変化率法はいちばん簡易な計算方法である。単純な計算なので、多少のずれはある。

（安藤岳委員）

この会議にはどれだけの意見力があって、いつ頃開催というのは決まっているか。

（富田_地域振興課副課長）

会議の回数は年に2、3回。予算要求や、計画の見直しのタイミングでと考えている。諮問・答申ではなく、委員が自由に協議し、町に対して提案できる。

（中尾町長）

行政施策の見直しという考え方でいいのではないか。現在計画を凍結している地域自治区については運営のバイタリティーがない。そのステップとしての会議にしてほしい。

（松下洋平委員）

人生設計表は28年度のものだが、29年度に廃止になるものはあるか。

（中尾町長）

自分が町長でいるうちは廃止するものはない。

（松下洋平委員）

移住者アンケートをとってみては、移住者はどこの地区に多いのか。他市町村の補助金の充実度や、ここにある補助金をどうして移住者は使っていないのかなどのデータがほしい。補助金があるのに使っていない理由は、なにかしら使いにくいからだと思う。

（中尾町長）

アンケートはなかなか返事がないので、この会議に移住者を呼んで話を聞いてみては。

(山本大輔委員)

十川小が複式学級になるが、小学校の合併は考えていないのか。こぼと保育園の移転についてはどうか。商店街に空き店舗が多くなってきたが、店主の体が動かなくてできないのなら、やれる人がやればいい。情報共有が大事。

(中尾町長)

十川小について、子どもが減ったから統合ということは考えていない。子どもと保護者の意見を聞きながら進めていきたい。こぼと保育園についても同じである。中学校は十川なので、小学校は昭和にといい意見もあるが、保育園・小学校・中学校がばらばらの地区だと保護者の負担も大きいので、いちばんいいのはひとつの場所にまとまり、安全な場所にできることではないかと考えている。

空き店舗については、集落活動センターのような形で店舗をすることも考えてみては。コンビニがないのも寂しい。

(八木敏伸委員)

伝統行事の継承も大事。昔は地区でいろいろな行事があった。今は続けられる人がいなくなり、神輿をかついだりする行事は協力隊などが応援に来てくれて何とか続いている状態。

今回の会議は、課題1 急激に減少し始めた世帯数と、空き家の増加への対応・課題3 疲弊する商店街の活性化・課題5 将来性のある雇用の確保を議題としては。この3つの課題は連動していると考え。また会議についてももっと意見を出し合っていく場になればと思う。

(中尾町長)

実は雇用の場はある。雇用する側からすると人が足りない状態である。雇用する側と雇われる側が求める条件がミスマッチしている。

(武内孝徳委員)

将来性のある、という言葉がポイントなのでは。民間の仕事はもちろんある。若い人は公務員を目指しているのでは。昔は民間でも給与や安定感があったが、今は違う。若い人は将来性のない仕事ばかりだと思うから帰ってこないのでは。役場職員を増やすという考えはないのか。

(中尾町長)

人口が減っている状況に反比例して職員を増やすことは難しい。ただ、四万十町は同規模の市町村と比べると職員数は多いほうである。

(山本大輔委員)

子どもは親や地域の大人の姿を見て成長する。こんな仕事もあると教えること、可能性のある仕事を教育することも大事では。

(中尾町長)

子ども未来塾を立ち上げている。そこで検討したい。子供たちには楽しかった地元での思い出で帰ってきてもらいたい。

(中野千里委員)

道の駅は職員30人ほどで、求人をかけても来ない。人手不足である。土日が休みではないからかなと思う。おもてなしにやりがいを感じてくれるような職員が来てくれたらと思っている。子どもがいるから働けないという方もいるが、道の駅では退職した保育士さんを雇って道の駅の2階で職員の子を見てもらっている。

(山本卓委員)

建設業でいうと、若手が減ってベテランばかりになっている。若手を雇用したい。ただ、忙しい時期はいいが、仕事が少ない時期に何人も雇って抱えきれぬのか不安になる。

(中尾町長)

各界の代表者を集めて何が課題か話を聞きたい。

(山本拓也委員)

人口減少に歯止めをかけ、若い人に住みやすい環境をつくること。弱みが分かったうえで、それを強みにする取り組みがしたい。例えば四万十川を生かした取り組み。四万十川のアユやウナギはブランド物。今回の委員には漁業関係者がいないと思うので、呼んでもらい話が聞きたい。

(武内孝徳委員)

交通手段も議題にあげてもらいたい。デマンドバス、予約できるバスなど検討してもらいたい。

(松下洋平委員)

他市町村で取り組んでいる、山間地域の交通手段をまとめた資料がほしい。

(山本拓也委員)

地元の人が運転となると、保険や、事故をした時の対応、免許や資格、ガソリン代等は個人負担か、などの問題も出てくる。そういったものも資料にまとめてもらいたい。

(安藤岳委員)

次回課題は①山間地域の交通手段、②今日の意見をもとに事務局が提案するものの2つでよいか。時期は6月ごろ、今回会議と同じ時間帯に開催する。

(全員)

異議なし。

(八木敏伸委員)

次回はワークショップ形式の会議を希望する。

— 終 了 —